

ストーリーボックスに関する一考察

井 上 裕 子

An Analysis of Storyboxes as a Tool for Education

Yuko Inoue

ストーリーボックスに関する一考察

井上 裕子*

An Analysis of Storyboxes as a Tool for Education

Yuko Inoue*

Received December 3, 2012

Abstract

This paper attempts to analyze Storyboxes, which were created for promoting storytelling for children in Scotland. The author of this paper participated in the workshop featuring Storyboxes at the Scottish Storytelling Centre in Edinburgh in August, 2008. The workshop lecturer was Judy Paterson, who designed the Storyboxes along with Storybox Core Resource Materials in response to the request from the Scottish Storytelling Centre. The purpose of the materials was to help adults or teachers to get children involved in storytelling with fun. The findings are intriguing approaches including a large variety of activity/playing cards, which could attract children's interest and stimulate their imagination. This paper also discusses storytelling as an educational tool, which can be adopted into any subject in a school curriculum.

はじめに

エジンバラにあるスコティッシュ・ストーリーテリング・センター（以後「センター」と表記）はストーリーテリングの推進活動を行っているスコットランドの公的機関である¹⁾。センターの活動は井上(2008)が報告しているように、イベントの企画から運営、講座主催、ストーリーテラー派遣など多岐に亘っている。筆者が初めてセンターを訪れたのは2007年6月²⁾。丁度、センターがリニューアルオープンして1年が過ぎた頃である。翌年8月にストーリーテリング講座の受講を目的に、センターを再訪した。受講した講座の1つにセンターの推進プロジェクトである「ストーリーボックス」があった。ストーリーボックスは、子供達自身がストーリーテリングに取り組みやすいように考案された箱である。箱の中には人形・ぬいぐるみ・小道具などが入っている。小論ではストーリーボックスの分析とスコットランドの初等教育におけるストーリーテリング活用法について考察を試みる。

*教育能力開発センター

Center of Development for Education

1. ストーリーボックス誕生の背景

2002年～2004年の3年間、センターはスコットランド芸術評議会および各自治体の教育委員会協賛の下、「お話作りプロジェクト」を企画・実施する。プロジェクトの目的は次の3つ。

- (1) 子供達へストーリーテリング導入
- (2) 教師のストーリーテリング技能向上
- (3) 子供達のストーリーテリング技能養成

この企画は好評を得、「お話作りプロジェクト」期間中に多くの学校がストーリーテリング・フェスティバルや独自のストーリーテリング・プロジェクトを実施した。センターのさらなるステップはストーリーテリングを子供達に浸透させることだった。子供達の想像力を刺激し楽しめるもの、また、教師が活用しやすいものは何かを追求した結果、誕生したのがストーリーボックスである。考案者はストーリーテラー兼作家であるジュディー・パターソン(写真)。元小学校校長である。ストーリーボックスは2005年末から2006年始めにかけ地元の小学校で試験的に使用され、その後、一部の学校で本格的に活用されている³⁾。

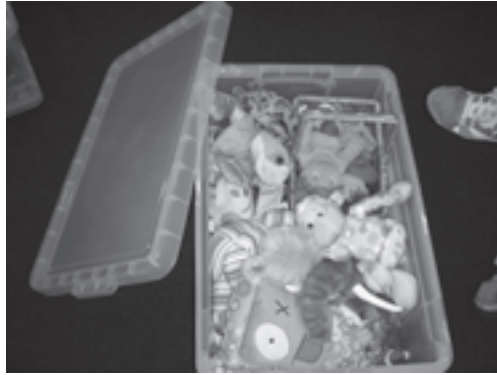


ジュディー・パターソン
2008年8月筆者撮影

2. ストーリーボックスの種類と中味

ストーリーボックスはテーマ別に全7種類ある。中味はそれぞれのテーマに沿ったぬいぐるみ・お面・指人形・小道具などである⁴⁾。

	テーマ	対象年齢/学年
1	幼児用	3歳～6歳
2	世界一周	小学校低学年～中学年
3	海と岸边	小学校低学年～中学年
4	動物	小学校低学年～中学年
5	怪談	小学校中学年～高学年
6	魔法と謎	小学校中学年～高学年
7	スコットランド	小学校中学年～高学年



ストーリーボックス（幼児用）
2008年8月筆者撮影

因みに筆者が購入した動物をテーマにしたストーリーボックス⁵⁾の中味は以下の通り。

- ①指人形：ワニ、オウム 計2点
- ②ぬいぐるみ：犬、てんとう虫、モグラ、駱駝、縞馬、ライオン、亀、カンガルーの親子、手長猿、キリン、鼻、ゴリラ、蛇、ハリネズミ、鷲、蜜蜂、ミニ怪獣、蝶（エリック・カールの「はらぺこあおむし」）計18点
- ③かぶり物：象、虎、民族帽子 計3点
- ④お面：虎、縞馬、象、猿、キリン、ライオン 計6点
- ⑤楽器：でんでん太鼓、マラカス 計2点
- ⑥その他：虎柄のマント、黒い羽でできたショール、木製の小箱（中に南国の植物の実1つ・乾燥蓮の実2つ・乾燥したレモンの輪切り2枚・葦で編んだボール2個） 計3点
- ⑦アクティビティ用カラーリボン 計10本
- ⑧アクティビティカード 計32枚

以上のようにストーリーボックスの中味は充実している。音が出るもの、手触りのよいもの、視覚に訴えるもの、想像力を掻き立てるものがぎっしり詰まっている。お面やかぶり物は劇にも使える。木箱は謎解きの小道具としても使える。マントはお話を順番に回していく際にストーリーテラーの印として子供達の肩に掛けることもできる。筆者は2008年11月より金沢市立玉川こども図書館でボランティア活動をしているが、ストーリーボックスの動物は絵本の読み聞かせにも重宝している。一つずつ買い揃えるよりはストーリーボックスのようにテーマ別にぬいぐるみなどが入っていると使い勝手がある。

3. ストーリーボックスの概念

3-1. 手引書

ストーリーボックスにはテーマ別に手引書がある。手引書の内容は次の通り。

(1) ストーリーボックス誕生の背景

- (2) ストーリーボックスの目的
- (3) カリキュラムとの関連
- (4) ストーリーボックスの作り方
- (5) ストーリーボックスの活用法
- (6) 語りのマスター方法
- (7) お話作りの構成要素
- (8) ゲーム紹介
- (9) アクティビティー紹介
- (10) お話 (7 話～8 話)

3-2. 大人や教師の役割

ストーリーボックスは子供達自らが楽しんでお話作りができるように考案されたものであるが、活用する上で大人や教師が重要な役割を果たす。手引書には、まず大人や教師がストーリーテリングのお手本を示すことが強調されている。身近にいる大人や教師がお手本を示すことで、子供達は自らやってみようという意欲が湧く。野間(1988)は、絵本の読み聞かせとほぼ同じウエイトをかけて紙芝居の実演を小学校一年生のクラスで試みたところ、半年後に児童の中から「紙芝居をやりたい」という声が上がリ、その後クラスのほぼ全員が自主的に紙芝居に取り組んだ事例を報告している。DVD などの動画を見せるのではなく、身近にいる大人が実演してみせることが子供達にとって良い刺激となる。

次にストーリーテリングの定義について触れたい。櫻井(2002)は次のように論じている。「語りは、読み聞かせや朗読とは違うのです。本を手を持たないで語ります。昔ながらの民話の語り方に似ています。本の中の文を一字一字間違えないように暗記するものではありません。(中略) 文字を一字一字覚える訓練をするのが大事なのではなく、自分なりの語り口をつくってゆくことをストーリーテラーは大事にしています」⁶⁾。手引書には大人や教師のためにストーリーテリングのマスター方法が紹介されているが、やはりそこでも自分の言葉を用いながら自分のスタイルで語る事が強調されている。また、子供達に語るお話は必ずしも手引書の中にある作品を選ぶ必要はない。馴染みのある「赤ずきんちゃん」や「三匹のこぶた」など単純なストーリーでも、実話でも、思い出話でもよい。語り手である藤田浩子氏はアメリカの小学校で語りをする機会があった。「このお話はどうですか。」と児童に尋ねたところ、「そのお話は知っているが、あなたの語りはまだ聞いたことがない。是非聞いてみたい。」という返事に感銘を受けたという⁷⁾。肝心なのはどんなお話でも自分のものにして語る事である。手引書には練習方法として、常に声を出しながら自分の話しぶりを確認すること、ストーリーのイメージ化、自分自身をストーリーの中に存在させることなどを紹介している。語り手の多くは、場面のイメージ化を重視しているが、そうでない語り手もいることから、マクドナルド (2006) は両方を試した後で自分のやり方を決めた方がよいとしている。

3-3. カリキュラムとの関連

センターおよびストーリーボックス考案者はストーリーボックスが教育現場で幅広く活用されることを期待している。なぜならストーリーボックスを使った活動が学習スキルや「話す」「聞く」を中心とするコミュニケーションスキルの向上に繋がると考えているからである。さらに、子供達の想像力を豊かにし、思慮を深め、自尊心を高め、協調性を養うことにも繋がる

と捉えている。ストーリーボックスは、国語（英語）を筆頭に美術、演劇、ゲール語、音楽、道徳、保健、数学、科学などあらゆる科目での活用が可能であるとしている。

尚、ストーリーテリングをカリキュラムに導入している国は多い。マクドナルド（2006）は「ちびヤモリのゲッコ」を題材にした場合の各教科における活動を提案している。社会科ではストーリーの舞台となっている西アフリカ、リンバ族の文化、日照りの多い世界の地域について調べることができる。科学では、日照り、地下水、井戸、ヤモリ、サンショウウオ、トカゲなどに焦点を当てることができる。ドラマでは、仮面劇、人形劇、創作劇などを演じることができる。さらにフェミニズム問題について取り上げることもできる。一つのストーリーを様々な視点から捉えるのである。ストーリーテリングは、「聞く」「話す」力だけでなく、「書く」力（お話作りの場合）や指示を正確に解釈する力の向上に繋がる。ストーリーボックスを通して楽しみながら国語（英語）力を伸ばしていくのである。ストーリーテリングは独立した科目ではなく、カリキュラムの共通ツールとして位置づけている。このような点からも国語力が全ての科目の土台と見なしていることが分かる。

スコットランドに限らずイギリスではお話を聞いた後で子供達自身が自分の言葉を使って再話することを奨励している⁸⁾。再話するということは内容を十分に理解していなければならない。内容を理解するには集中してお話を聞かなければならない。また、内容を理解していたとしても再話するには、聞き手に伝わるように話す工夫が必要である。例えば、アイコンタクト、身振り手振り、顔の表情、声の調子などである。スコットランドには“eye to eye, mind to mind, heart to heart”という語りの基本を表わす諺がある。これは人に何かを伝えたい時、人前で何かを発表する時にも当てはまる。ストーリーボックスはゲーム感覚で子供達にストーリーテリングの基盤を形成させていく。小学校からこのような技能訓練を受けていれば、少なくとも原稿を棒読みしたり、要領を得ない話し方をしたりする大人にはならないのではないかな。

ストーリーボックスは3歳～18歳を対象にしたスコットランドの教育方針 Curriculum for Excellence も射程に入れている。2009年に公布され、2010年ないし2011年から実施されている Curriculum for Excellence は、目まぐるしく変化する21世紀の国際社会の中で活躍できる人材育成を目指している。その4本柱は以下の通り。

- ①個々が学習者として成功する
- ②個々が自信を持つ
- ③個々が善良な市民となる
- ④個々が社会貢献できる

上記目標を達成するためには親、教師、地域が一丸となって取り組む必要があるとしている。Curriculum for Excellence を実現するには、教師のキャリアアップが不可欠となる。そこで政府は外部機関および地域に対しCPD(Continuing Professional Development)の協力を要請している。つまりセンターはCPDの協力機関の一つと言える。

ではストーリーボックスをカリキュラムに取り入れた場合、どれくらいの時間が必要か。発案者は下記のように提案している。

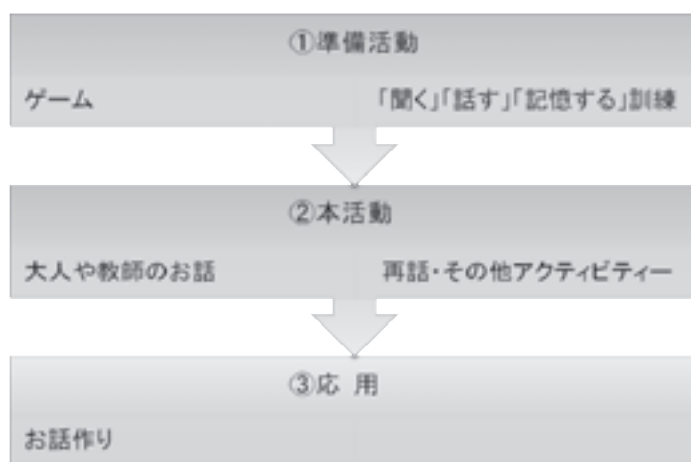
- ①ゲーム感覚で毎日
- ②週の時間割の1.2%
- ③学期（セメスター）中に1～2時間
- ④お話作りに取り組む場合は短縮授業で週1～2時間

以上のようにストーリーボックスの時間的負担はさほど大きくない。ストーリーボックス講座

ではストーリーボックスを活用した小学生グループによる再話が DVD で紹介された。低学年でも自分の言葉を駆使しながら、中学年になると表現豊かにグループ内でかけ合いの「三匹のこぶた」を披露していた。小さな積み重ねから大きな成果に繋がるのが DVD から窺えた。

4. ストーリーボックス活用の手順

ストーリーボックスは子供達が自然にストーリーテリングに慣れていくような手順を踏んでいる。手引書から次のような取り組みの流れが見えてくる。準備活動ではゲーム感覚で「聞く」「話す」「記憶する」訓練を中心に、本活動では大人や教師のストーリーテリングを通して再話やその他のアクティビティーを、応用としてリボンの質問やカードを用いながら子供達のお話作りを進めていく。



4-1. 準備活動

準備活動では子供達の「聞く」「話す」「記憶する」力をゲーム感覚で養う。手引書には子供達の五感を刺激するようなゲームが幾つか紹介されている。

例えば、ストーリーボックスの中から動物のぬいぐるみなどを数点取り出し、子供達の前に並べる。次に、子供達の目を閉じさせ、取り出したぬいぐるみのうち1～2点を箱の中へ戻す。その後、子供達の目を開けさせ、「どの動物が消えたか」「その動物はどこへ行ってしまったのか」「今、その動物は何をしているのか」といった質問を投げかける。子供達の想像の世界を、子供達自身の言葉を使って表現させるのである。

その他に累積物語(cumulative tales)を取り入れたゲームがある。お話を順に積み重ね、繰り返していくお話である。I Know an Old Lady (ハエをのみこんだおばあさん)の歌⁹⁾やGingerbread Man¹⁰⁾もこれに属す。概して英語圏の子供達はマザーグースなどを通して言葉の繰り返しやリズムを楽しむことに慣れている。筆者が参加した他のストーリーテリング講座でも度々累積物語が紹介されていた。言葉を積み重ねていくだけでなく身体動作も加えていくと楽しさが増す。これはデイビッド・キャンベルの講座¹¹⁾で紹介されたやり方である。

以上のように準備活動では「聞く」「話す」力だけでなく観察力や記憶力の訓練も含まれて

いる。この段階では子供達が楽しみながら発話することを目指す。

4-2. 本活動

手引書では大人や教師のストーリーテリングの後、暫く時間を置くことを勧めている。お話を吸収し整理する時間が子供達に必要なだと考えているからである。本活動では子供達が単に聞いたお話を再話するだけではない。様々な角度からアプローチが可能である。例えば、各場面の絵を描かせたり、登場人物の絵を描かせたりすることもできる。「書く」活動として、ストーリーの穴埋め、登場人物を利用したアクロスティック（各行最初の字を並べるとある単語になる言葉遊び）などがある。「話す」「聞く」活動として、登場人物をテレビレポーター風にインタビューをさせたり、ストーリーを演じさせたりする。活動内容は学年やレベルに応じ、活動形態は個別単位、グループ単位、クラス単位と臨機応変にするとよい。

4-3. お話作りの構成要素と応用

お話作りには登場人物、場所、出来事などのモチーフ（題材）設定が欠かせない。手引書にはモチーフの基本要素となる登場人物（主役、悪役、援護役）、場所、試練/冒険、出来事、お守り（魔法の道具や助けとなる呪文）が紹介されている。このようなモチーフの基本要素を予め理解していればお話作りだけでなく再話も取り組みやすい。片岡（1998）は、物語の構造を知ることが語りをする上で有効であると論じている。つまり、物語の骨格を捉えることで、物語のメッセージが明確化し、語り到的確なめりはりのある演出ができるというのである。子供達にも物語の基本構造を理解させることは有益である。但し、始めからモチーフの基本要素を伝えるのではなく、お話を幾つか聞かせた後で引き出すのがよい。

ストーリーボックスの4種類（青・黄・緑・赤）に色分けされたモチーフカード（各8枚、合計32枚）は、お話作りのヒントとして使う。青色のカードには登場人物が、黄色のカードには仲間や救援者が、緑色のカードには薄情者が、赤色のカードには危険や障害となるものが書かれてある。まず、子供達を輪になって座らせる。次に、32枚のカードをよく切り、真ん中に裏返しに並べる。子供達の中から4人を選び、1枚ずつカードを選ばせ、読み上げてもらう。例えば、青色のカードに「しっぽのないお猿さん」、黄色のカードに「小さな男の子」、緑色のカードに「意地悪なお猿さん」、赤色のカードに「ワニがうようよいる川」が出たとする。これらをモチーフに即興で子供達にストーリーテリングを始めてもらう。その際、ぬいぐるみなどを順番に回しながら全員が語る機会を作ることが大切である。尚、使用するモチーフカードは子供達の人数に合わせて増やすことできるし、ストーリー進行中に加えることもできる

ストーリーボックスのもう一つの活動ヒントとして10本のリボンがある。各リボンには「もしも～だったら」の質問が一文ずつ書かれている。例えば、「もしも空を飛ぶ猫を飼っていたら」「もしも人間の言葉をしゃべる犬を飼っていたら」「もしもベッドの下に妖精が住んでいたら」「もしも魔法の杖を一日使えとしたら」「もしも空き家からすすり泣きのような声が聞こえてきたら」「もしも海賊船に乗っていたら」「もしも魚釣りをしていて人魚が釣れたら」など、子供達の想像力を掻き立てるものばかりである。新たに「もしも～だったら」の質問を加えてもよい。その際、大人や教師が作ってもよいが、子供達自身に作らせるのも一つの方法である。

さらに「なぜ?」「どうして?」という質問からストーリーを展開することもできる。まず、大人や教師が「なぜ?」「どうして?」のお話を語る。例えば「駱駝にはどうしてこぶがある?」「象の鼻はなぜ長い?」など。次に、ストーリーボックスの中から動物を選び、よく幼児が大

人にするような「なぜ?」「どうして?」の質問を元にストーリーを一人ずつ展開していく。

最後に、お話作りのヒントとしてイソップ物語などの寓話を活用する方法がある。例えば、「きつねとからす」(手引書にも掲載)、「北風と太陽」、「蟻とキリギリス」などを語る。次に、ストーリーボックスの中から動物を全て取り出し、その中から動物を適宜選び、別の寓話を作るのである。イソップ物語には比較的短めのお話が多いので、あまり時間がとれない時には便利である。

このようにお話作りには様々なアプローチの仕方がある。筆者が受講したデイビッド・キャンベルの講座では色をモチーフにお話作りの課題が出された。ストーリーボックスには子供達が楽しくお話作りができる様々なアクティビティーが紹介されているが、大人や教師の工夫次第でさらに世界が広がる。

5. まとめ

小論では子供達が楽しくストーリーテリングやお話作りに取り組めるようスコットランドで開発されたストーリーボックスに焦点を当て、その活動内容や工夫について考察を試みた。海外ではストーリーテリングをカリキュラムに導入している学校が数多くある。ストーリーテリングを独立した科目としてではなく、様々な科目の共通ツールとして活用しているのである。ストーリーテリングは「聞く」「話す」力を伸ばすだけでなく、子供達の想像力を豊かにし、協調性を育むことにも繋がると捉えている。ストーリーボックスはストーリーテリングの基礎から発展のお話作りまでゲーム感覚で学べる道具箱である。手引書は、子供と一緒にストーリーテリングを始めたい大人やストーリーテリングを教育現場に導入したい教師のための入門書としても役に立つ。ストーリーボックスを活用する上で大人や教師の存在は欠かせない。なぜなら大人や教師がストーリーテリングのお手本となるからである。この点からストーリーボックスは子供だけでなく大人や教師のスキルアップにも繋がる。

日本の小学校では朝のお話タイムなどを利用してボランティアによる読み聞かせ、紙芝居、語りなどを鑑賞することが多い。上級生が下級生に読み聞かせをしているケースもあるが、大半の学校では子供達が専ら聞き手となっている。残念なことに日本ではボランティアのお話から児童の再話或いはお話作りに繋げていく事例は少ない。新学習指導要領(2008)では、各教科における基礎的知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視している。学習基盤となる言語能力の育成は国語科のみならず各教科においても重要である。総合的な学習の時間は教科の枠を超え、横断的に課題が取り組める時間でもある。このような時間にストーリーテリングの導入は有効と思われる。

近年、様々な電子機器が次々と開発され、子供達を取り巻く環境にもデジタル化の波が押し寄せている。そんな中、米国小児科学会やカナダ小児科学会はテレビ視聴が言語発達の遅れに結びつく可能性があるとして乳幼児のテレビ視聴に警鐘を鳴らしている¹²⁾。日本小児学会について言えば、2004年に「子どもとメディア」の問題に対する提言をしている¹³⁾。ストーリーボックスを使ったストーリーテリングでは電子機器を一切使わない。そこには人と人との直接のコミュニケーションが成り立つ。こういう時代だからこそストーリーボックスのような素朴なものを見直すべきだと考える。

小論は2008年12月13日のJACET中部支部定例会での発表をさらに発展させたものである。

謝 辞

参考資料としてストーリーボックスの紹介 DVD を送って下さったスコティッシュ・ストーリーテリング・センターに心よりお礼を申し上げます。

註

- 1) スコットランド芸術評議会・スコットランド開発公社・エジンバラ市議会・スコットランド教会が協賛。総事業費 350 万ポンドをかけ 2006 年 6 月にリニューアルオープンしたストーリーテリング専門機関。
- 2) 櫻井美紀氏(当時「語り手たちの会」会長)を団長にセンターを表敬訪問する。
- 3) ダンディー、パースショア、ノースラナークシャー、ロージアンおよびオランダやフィンランドの小学校。
- 4) Active Learning Resources Ltd. www.activelearningresources.co.uk
- 5) ストーリーボックス(Animal Fun) 509.65 ポンド。手引書は各 29.99 ポンド(Early Years のみ 24.99 ポンド)。ストーリーボックスの中に動植物系の物が入っているため、販売元の輸出手続きが煩雑。筆者の場合、輸入通関手続きの委任状を代行会社に提出した。
- 6) 櫻井美紀(2002)『ことばが育てる いのちと心』一声社 pp.160-161.
- 7) 2008 年 3 月 12 日、松任図書館主催「藤田浩子氏お話し会」より。
- 8) Taffy Thomas ホームページより <http://www.taffythomas.co.uk/frame1.html>
- 9) ハエをのみ込んだおばあさんがお腹の中のハエを取るために蜘蛛、鳥、猫、犬、牛を次々とのみ込み、最後に馬をのみ込んで死んでしまう歌。
- 10) ジンジャーブレッドマンを人や動物が次々と追いかけていくお話。地域により追いかける人や動物は様々。
- 11) 2008 年 8 月の上級クラス(於:スコティッシュ・ストーリーテリング・センター)
- 12) The Guardian, Ban Under-Threes from Watching Television, Says Study, 2012 年 10 月 9 日 http://news.bbc.co.uk/2/hi/programmes/click_online/9768896.stm.
- 13) メディア接触の低年齢化、長時間化は親子が顔を合わせ一緒に遊ぶ時間を奪い、言葉や心の発達を妨げると警鐘を鳴らしている。 <http://jpa.umin.jp/download/media/proposal02.pdf>

参考文献

- 井上裕子(2008)「英国のストーリーテリング・センターとストーリーテラーズ・ガーデン」『北陸大学紀要』第 31 号 pp.137-148 北陸大学
- 井上裕子(2009)「スコティッシュ・ストーリーテリング・センターを再び訪れて—お話の箱の大いなる可能性—」『太陽と月の詩』No.183 NPO 法人語り手たちの会
- 井上裕子(2009)「スコットランドでのストーリーテリング・ワークショップ—デイビッド・キャンベルの上級クラスに参加して—」『全日本語りネットワークニュース』No.31 全日本語りネットワーク
- 片岡・櫻井(1998)『語り—豊饒の世界へ』萌文社
- 櫻井美紀(2002)『ことばが育てる いのちと心』一声社
- 野間成之(1988)『教室の中に青空と夢を一親に学び、子らと歩む』ゆい書房
- マクドナルド, R. マーガレット(2006)『ストーリーテリング入門—お話を学ぶ・語る・伝える—』末吉正子・末吉優香里訳 一声社
- 文部科学省(2008)『新学習指導要領』
- Paterson, J. 2008. *Animal Fun - Storybox Core Resource Material*. Dundee: Active Learning Resources Ltd. with The Scottish Storytelling Centre.
- Paterson, J. 2008. *Around the World - Storybox Core Resource Material*. Dundee: Active Learning Resources Ltd. with The Scottish Storytelling Centre.

- Paterson, J. 2008. *Early Years - Storybox Core Resource Material*. Dundee: Active Learning Resources Ltd. with The Scottish Storytelling Centre.
- Paterson, J. 2008. *Magic and Mystery - Storybox Core Resource Material*. Dundee: Active Learning Resources Ltd. with The Scottish Storytelling Centre.
- Paterson, J. 2008. *Scottish Stories - Storybox Core Resource Material*. Dundee: Active Learning Resources Ltd. with The Scottish Storytelling Centre.
- Paterson, J. 2008. *Sea and Shore - Storybox Core Resource Material*. Dundee: Active Learning Resources Ltd. with The Scottish Storytelling Centre.
- Paterson, J. 2008. *Spooky Stories - Storybox Core Resource Material*. Dundee: Active Learning Resources Ltd. with The Scottish Storytelling Centre.
- Scotland Education. The Journey to Excellence. <http://www.journeytoexcellence.org.uk/> Internet. 23rd Oct. 2012.